

お盆に出荷可能で作りやすいモモ品種

1 はじめに

本県では、新たな果樹品目の導入による農家所得の拡大を進めており、モモの普及を計画しています。モモは県内での栽培事例が少なく、今後の栽培拡大に対応した品種選定が必要です。

モモ13品種を栽培して、生育特性や果実品質等の調査を行い、収量・品質が良好で、直売所等においてもっとも需要が見込めるお盆に販売できる品種を選定したので紹介します。

2 技術内容

1) おすすめ品種の概要

モモ・スモモともに4m×2.75m(列間×樹間)の計画密植で露地・地植えとし(図1)、南北方向の2本主枝で仕立て、主要産地の事例を参考に栽培管理を行いました。モモでは病害虫被害軽減のため、はっ水加工された白色の果実袋を用いて袋かけ栽培としました(図2)。

本県の環境条件下において、樹体生育が良好で、植栽から比較的短期間で結実が増加し、品質良好な品種として、前年に選定した「つきあかり」に加え、今年度は「なつおとめ」を選定しました。

- 「なつおとめ」: 8月上旬に収穫できる早生～中生の白肉種です。果皮地色は黄色で、白色半透明の袋かけをかけて栽培するとほぼ全面が濃い目の赤に着色します。5年生樹(平成29年度)では、200g以上の果実が90%を占め、平均果重は253gで十分なボリュームがあります。糖度は14%以上を確保できます。果実にせん孔細菌病が発生しますが、着果期間に加えて秋季防除(9月)を行うことで著しい被害になりません。果肉内のみつ症(生理障害)は少し認められますが、核割れはなく、果肉品質は良好です。
- 「つきあかり」: 7月下旬に収穫できる早生～中生の黄肉種です。果皮地色は緑黄～黄色で、白色半透明の袋かけをかけて栽培すると赤に着色します。5年生樹(平成29年度)では、200g以上の果実が70%を占め、平均果重は222gでボリュームがあります。糖度は14%程度を確保できます。果実にせん孔細菌病が発生しますが、着果期間を中心に防除を実施すれば著しい被害になりません。果肉内のみつ症(生理障害)は少し認められますが、核割れはなく、果肉品質は良好です。



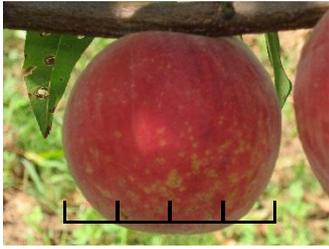
図1 モモ・スモモの栽培圃場



図2 モモの袋かけ栽培

表 モモ・スモモの主要な特性

(平成29年産＝5年生)

樹種・品種名 (育成者)		果実品質		特性
モモ 「なつおとめ」 (農研機構)		収穫期	8月上旬	・授粉作業は不要 ・収量は多め ・全面が赤く着色する
		1樹収量	10.4kg	
		果重	253g	
		糖度	14.6%	
		果肉色	白	
モモ 「つきあかり」 (農研機構)		収穫期	7月下旬	・授粉作業は不要 ・収量は多め ・陽光面が赤く着色する
		1樹収量	13.8kg	
		果重	222g	
		糖度	13.0%	
		果肉色	黄色	

3 技術の効果およびコスト

- 新しく導入する品種選定の参考になります。
- 直売所等における販売額の増加が期待されます。

4 留意点など

- 果重や糖度などの果実特性は年次変動があります。
- いずれの品種も主要な果樹苗木業者から購入することができます。
- 施肥は春肥および礼肥として、それぞれN成分で65g/樹を施用。また、春肥のおよそ10日後にFTE(総合微量要素資材)50g/樹を施用しました。
- 「つきあかり」・「なつおとめ」ともに自家結実性があり、他の授粉用品種混植や授粉作業は不要です。
- モモの結実管理では、蕾の先端にピンク色の花弁が見え始めた頃に摘蕾を行うことで、その後の摘果作業が軽減されます。
- モモのせん孔細菌病は、果実の品質低下や落果、早期落葉を引き起こし、収量・品質に大きな影響を与える細菌による病害です。この病害は強風で発生が増加するため、風当たりの弱い圃場を選定するとともに、防風垣や防風ネットなど防風対策を講じておく必要があります。

5 経営収支試算例

(単位：円)

区分		モモ	
販売収入①		800,000 [@400円×2t/10a]	
経 営 費	生 産 原 価 ②	肥料費	24,686
		農薬費	51,134
		動力光熱費	1,856
		諸材料費	39,815
		修繕費	11,082
		減価償却費	85,876
		生産雑費	2,166
	管 理 費 ③	販売費(販売手数料15%他)	200,000
		保険料等	2,707
		租税公課	1,824
		管理雑費	2,066
経 営 費 合 計 ④=②+③		423,212	
所 得 ⑤ = ①-④		376,788	
所得率 ⑥ = ⑤÷①		47.1%	

[その他]

研究課題名：水田を活用した省力果樹生産技術の開発

研究期間：平成25～29年度

共同研究者：東京農業大学ポストハーベスト学研究室 山口正己

研究担当者：農試 園研センター ウメ・果樹研究G 中川文雄